

特別活動の指導に関する一考察 —学校生活を楽しむ工夫—

A Study of Guidance in Special Activities —Tips to Make School Life More Enjoyable—

堀 正人* 濱口 常雄**

要旨

特別活動の主な教育活動は生活体験学習が中心であり、話し合い活動、討論、発表、生活体験、社会体験などの活動を行っている。これらは、人格形成を目指す教育活動であり、豊かな人間形成を図ろうとする教育活動である。そこでは、複雑で変化の激しい社会での生き方などについて体験的に学ぶ場が必要である。特別活動は、社会的に自立し生きていくために必要な「生きる力」を育成し、さらに人間関係を構築し、社会に参画する態度や能力の育成を図っている。

キーワード：望ましい集団活動 人間関係 体験学習 自主的実践的な態度 「総合的な学習の時間」における学習活動との関連について

1、学校教育と特別活動

特別活動は教育課程に位置付けられた教育活動であり、また学校は意図的・計画的に教育活動を行う機関であるので各学校の教育課程に基づいて実施されているのである。学校は学校教育法施行規則（72条）に基づいて教科等が構成されている。その内容は国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語等の教科がある。これらは教科書があり、全国共通の学習指導要領によって内容が明確に示されている。しかしながら道徳、総合的な学習の時間、特別活動は教科書がなく学習指導要領に示された目標や内容は共通であるが具体的な内容や指導形態は各学校によって多様である。

特別活動は、集団活動を特質とする教育活動である。群れ（烏合の衆）と集団の違いについて言及すると目標、ルール（目標を達成するための方法や手段）があり、集団の成員（組織の一員）が相互に協力している。さらに、一人一人が個性を発揮し合いながら、目標の達成を目指すのである。その形態は、学級集団以外に小集団（班活動）、学年、全校と多様な組織で活動している。一貫してその基本は「体験から学ぶ」教育活動であるということである。これが特別活動の方法原理であり、集団による実践的な活動である。これは戦後ジョン・デューイ（米）の生活体験重視の教育から導入されたもので、学習者の興味や問題から出発する経験主義教育である。これによって全ての学習活動が活発で効果的となり、全人的発達、個性の伸長、社会性の育成を目指している。

* 神戸親和女子大学 非常勤講師

** 神戸市総合教育センター 主任指導員

2、特別活動の教育的意義

特別活動の中等高等学校の内容は学級活動（HR）、生徒会活動、学校行事となっており、小学校では学級活動、児童会活動、学校行事、クラブ活動となっている。これらは、児童生徒の人格形成に直接的にかかわる教育的な意義を有している。さらに、児童生徒の発達段階で指導方法や内容が異なり、集団活動の中で、実践的な活動を特質とする。学校教育は教師と生徒、生徒相互の人間的な触れ合いを基盤として、生徒の個性や能力の伸長や協力の精神を育成し、教科の学習に対して興味関心を高める活動である。また、特別活動は教科で培われた能力が総合発展される活動でもあり知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性や社会性の育成に貢献している。¹⁾

3、特別活動の変遷

明治時代の教科外活動の一つに、今日の学校行事（儀式的行事）に相当する「小学校祝日大祭日儀式規定」があり、精神教育の一環として長きにわたって続いていたが、戦後の教育改革により、この規定や活動は廃止された。そして、1947年には学校生活の節目となる始業式や入学式等は「儀式的行事」として再出発した。さらに、他の行事は「自由研究」として経験主義に基づく指導観を展開することになった。そして1951年には「特別教育活動」となり自由研究は廃止され「特別」という名称が生まれたのである。さらに1958年には学校行事を一つの領域とし、1968年になって学級指導も組み込まれて「特別活動」となった。こうして特別活動の「学級活動、生徒会活動、学校行事」の三領域が出来上がったのである。

1977年から「ゆとりの教育」1989年は「ゆたかな心・小中高の一貫性重視」1998年には「生きる力、総合的な学習の時間の新設」と改革が続き、2008年からは言語活動、伝統や文化に関する教育を重視するようになった。特に、学習指導要領で総合的な学習の時間との関連が明記されたことは学校の教育活動において特別活動の果たす役割が大きくなったといえるであろう。従来から特別活動（学校行事）として実施していた様々な体験学習が総合的な学習の時間創設に伴い、その中で実施できるようになった。総合的な学習の時間における体験・探究的学習が「特別活動の学校行事に代えることが出来る」とい規定は、教師の資質や能力を最大限に発揮できる場として多くの教師が歓迎したのである。特別活動の指導には教師の教科指導の力量だけではなく、後述の「教師力」が必要なのである。このことを大学の教職課程履修の学生に学ばせる機会が今こそ必要であろう。

次に、特別活動で学習しなければならないとされている事項をあげてみる。第一に、学級や学校の生活づくりがある。その内容は、生活上の諸問題の解決、組織づくり、仕事の分担、リーダーシップの発揮を通じて多様な集団の生活の向上を図ることである。第二に、日常の生活や学習への適応及び健康安全が取り上げられている。それは、希望や目標を持って生きる生活態度、基本的な生活習慣の形成、望ましい人間関係の形成を目的としており、具体的には当番等の役割分担をして働くことでキャリア教育の一端を担っている。さらに学校図書館の利用で言語活動の充実を図ろうとしているのである。第三に、心身ともに健康で安全な生活態度の形成がある。その内容は栄養教諭の協力等により食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成を図ることである。

次に現代の中学校で取り組むべき中に、今までなかったことが盛り込まれるようになっていく。それは、「適応と成長および健康安全」という項目の中で規定されていることであるが、今まで道徳や社会、保健体育という教科の中で学習してきた内容が集団指導を中心とした特別活動に盛り込まれるようになっていくことにも注目したい。詳細は、思春期の不安や悩みとその解決、社会の一員としての自覚と責任、望ましい人間関係の確立、コミュニケーション能力、ボランティア活動の意義の理解と参加、性的な発達に対する適応、生命の尊重と安全な生活態度、学業と進路で学ぶこと働くことの意義等とされている。

さらに、民主的な国家を構成する社会人として大切な自主性を育てる生徒会活動は、学校行事等での学年や学級の異なる他者との触れ合いや交流を通じて、望ましい人間関係を深めていく活動になっている。ここでは、生徒の自主的な組織である「生徒会」の活動内容に触れたい。全校生徒集会、昼休みの縦割り遊び、生徒朝会、部活動発表会、部活動壮行会、新入生歓迎会（遠足）、文化祭での生徒会の時間（みんなで歌おう）、体育会での応援合戦、部活動行進とリレー、地域との交流会などの多様な行事や活動が見られ、特別活動の成果がもたらしたものの大きさが感じられるのである。

さらに、現代では学校行事への生徒会の協力は欠かせないものとなっており、生徒の達成感や、自己有用感等のキャリア発達にも貢献する機会でもある。具体的には体育会において誘導は体育委員、放送は文化委員、救護は保健委員、召集は風紀委員、用具は整美委員、応援は本部役員といった係分担で責任を学んでいる。また、行事以外では各委員会からの要望や意見の集約をし、学校側との連絡調整をすることなど昔では考えられなかったような役割を生徒が果たしており、前述のように民主国家にふさわしい人材を養成しているのである。また、最近では様々な体験活動や地域等の交流活動が実施されるようになっており、ボランティア活動などの社会参加、職業体験学習等での代表挨拶、体験報告会の企画運営、地域クリーン作戦、募金活動の企画運営等で活躍する分野も増えている。このように学校教育の内容が特別活動の出現によって大きく変遷したことは、我が国の学校教育の歴史でかつてなかったことである。戦後、民主主義を定着させる中で「特別活動」の果たしてきた役割は大きく、自主的実践的な現代の社会を支える原動力になってきているのであろう。

次に大学での教職課程「特別活動論」の指導で実践してきた内容を紹介する。

4、特別活動の理解を深めるための実践

学校教育における特別活動の目標の達成には体験活動を通じて身につける資質や能力が大切である。そこでは直接体験が重視されるが、個々の生徒の生育歴によって、それまでの体験活動の個人差やアンバランスが問題となっている。具体的には間接体験の増加、直接体験の減少、疑似体験で済ましてしまう。といった現状である。そのため、学校教育では奉仕、体験活動の充実できっかけをつくり、特に中学校ではキャリア教育の一環として、職場体験での計画的継続的な取り組みを行っている。ここでは自己を生かす能力の育成を意識し、キャリア教育の視点を見据えて、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」などがこの教育活動の中で育まれている。

大学の教職課程の授業では、自らの小中学時代の特別活動の思い出や経験を学生に振り返ら

せて、毎回課題を出し「わたしの特別活動の経験」としてまとめて次回の授業に参考になっている。不思議なことに多くの学生は、教科の授業内容や教師の指導法についてほとんど覚えていない。ところが特別活動で体験したことは、鮮明に思い出が蘇えるのである。その理由を検証するためにも、毎回の授業で中学時代を振り返らせて書きとめ、話し合いを持たせた。特別活動は、その目的にもある通り学生にとってとてもよい「居場所」だったのである。今後はこの成果をフィードバックして、学生に当時の教師の意図するところを考察させ、教師は常に何を考えているのかを学ばせたい。そして、生徒の人間形成において教師とは何か、またどのような役割を果たしているのかを考えさせたい。

その演習項目を挙げると以下のようなになる。

- ①児童生徒時代の特別活動の経験を振り返り、心に残っている活動内容と、その経験はどの学校種時代のことなのか書いてください。
- ②心に残っている活動内容の内、自らの教師志望に影響を与えたと思われる活動内容（学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ（部）活動について述べてください。
- ③特別活動における「学校力」と「教師力」について、聞きます。中学時代に、尊敬できた先生の良い点を挙げてみよう。反対に尊敬できないのはどのような先生だろう。この両者の違いはどのような教師としての資質や能力のちがいによるものだと考えるか。また学校力と教師力の関係はどのような関係があるか資料を参考に述べてください。
- ④保護者から「学級活動とは何ですか」と質問されたとき、どの様に答えますか。具体的に述べてください。
- ⑤あなたの小中学校時代を思い出して、担任の先生が実践されていた「学級づくり」で印象に残っていることを具体的に書いてください。（当番、座席、教室環境整備活動、仲間づくり、いじめの防止、係活動等）
- ⑥あなたは小中高校時代に児童会・生徒会活動でどんなことをしましたか。また、あなたが教師なって児童会（生徒会）担当になったら、どのような活動を実施するか考えてください。
- ⑦あなたは小学校時代に参加したクラブ活動と中学での部活動を比べ、それぞれの思い出を述べてください。特に印象に残っていることはどんなことでしたか。また、あなたが教師になってクラブや部活担当になったら、どのような活動を実施するのか、年指導計画を含めて考えてください。
- ⑧小中高校の児童生徒時代に、あなたが体験した中で一番思い出に残っている学校行事について書き、とくにあなたが果たした役割や感動したことを詳しく書いてください。
- ⑨「〇〇中学校1年〇組 学級活動年間指導計画」の作成。別紙は、ある学校の学級活動年間指導計画例である。指導のねらいや活動のポイントをよく読んで、各題材の活動内容は、「学習指導要領」のどの項目になるのか特定してください。
- ⑩構成的グループエンカウンターを用いた実践をしてみましょう。初めてのグループにあなたを紹介してください。（質問項目の見本）誕生日、趣味、兄弟姉妹（家族）、ペット、昨日したこと、朝一にすること、旅行のスタイル、友達はジャイアンかスネオカ等々
- ⑪ある中学校の学校行事一覧表を参考にあなたの理想とする学校の学校行事の計画表を作成してください。

- ⑫中学の卒業式の季節になりました。「3年生を送る会」の指導計画を作成してください。
- ⑬熱中症発生時における危機管理について考察します。以下の事故（熱中症の発生）は学校管理下の事故である。この背景から今後求められる対策を考えてください。

以上のように、学生自身の小中高等学校時代の学校での経験を毎回思い出させて、学校教育における教師の意図を考察する時間を設けた。

ここで、上記の課題に対し教職課程を履修している学生のレポートから代表的なものを紹介し、特別活動が人間形成に果たした役割について考察したい。

（学校行事で特に印象に残っていること～抜粋）

- ①中学の文化祭：生徒会執行部で先生方の陰で支える仕事をした。
- ②高校の体育祭：応援団で苦勞し教師の立場を痛感した。
- ③高校の修学旅行：実行委員をしたが能動的な感じで新鮮な出来事だった。
- ④高校体育祭：ダンス発表のため何度も話し合いをして成功させた。
- ⑤中学文化祭：リーダーとしてハードスケジュールの中で頑張ったので達成感を感じた
- ⑥地域交流行事：だんじり唄の体験し文化を実感した。
- ⑦小学校自然学校：5泊も親から離れて女子のリーダーで勇気を出して声を出した。
- ⑧高校体育祭：振付役で人の表情を見て声を掛けることを覚えた。人の世話が楽しい。
- ⑨中学体育祭：本番前に練習欠席したのでダンスの指揮者という配慮をしてもらった。
- ⑩中学運動会：特別支援生と共に体で表現することや笑顔が大切だと学んだ。
- ⑪小学校自然学校：班長としてのやりがい、終わった時の達成感を思い出す。
- ⑫高校体育祭：伝統行事の実行委員の経験で大勢の前で声が出せるようになった。
- ⑬中学トライやる：小学校での活動で感動し、学校の在り方を考えた
- ⑭合唱コンクール：みんなが次第にやる気になる集団の不思議さを実感した。
- ⑮中学修学旅行：実行委員として全員が無事帰還することをテーマにした。
- ⑯中学スキー教室：全員ですることの感動は人と人との絆を感じた。
- ⑰高校体育祭：ダンスリーダーの経験でダンスが好きになった。
- ⑱小学校自然学校：みんなで生活する楽しさを味わった。
- ⑲地域学習：迫力ある太鼓を聞いて胸がわくわくしたことは忘れない。
- ⑳高校文化祭：坂本龍馬のことを調べてみんなで協力することを学んだ。
- ㉑総体壮行会：マイクなしで決意表明をした経験は気持ちを込める大切さを学んだ。
- ㉒高校野外活動：無人島で苦勞した経験は忘れられない。
- ㉓中学修学旅行：生徒が主体になった発表会で勇気を学んだ。
- ㉔高校文化祭：みんなと練習して日ごとに一致団結した。
- ㉕中学トライやる：周りの人が必死に働いている姿を見た驚き
- ㉖小学自然学校：夜になると寂しかったが先生が楽しくしてくれた配慮が印象的。
- ㉗中学トライやる：異文化交流での感動的な体験。
- ㉘中学文化祭：クラス一丸でまとまり、できたと思う瞬間で達成感を得た。

次に、幼児に集団のルールを覚えさせるために行われているゲームも紹介し、その中から実際に選んで学生に演技を試みた。²⁾

(屋外ゲーム・遊び)

- ①しりとりにレー
- ②雪はないけど雪合戦
- ③アニマルリレー
- ④3チームドッジボール
- ⑤今日はあなたもサンタさん
- ⑥障害物ゲーム

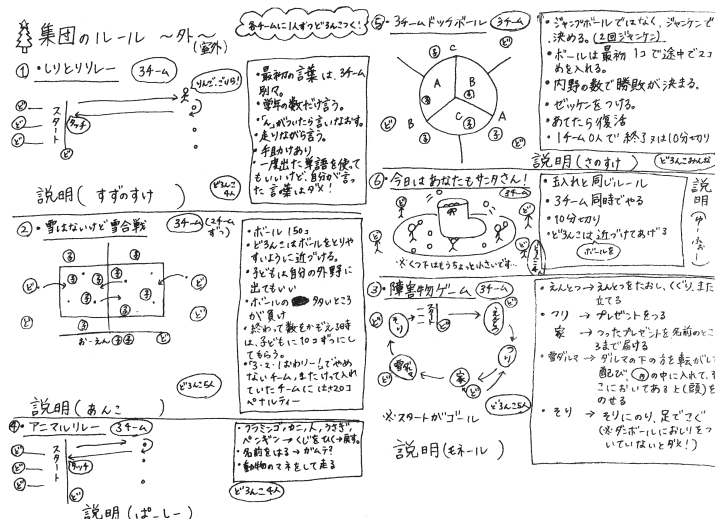


図2 集団ルール ～屋外用～

これらは幼児教育施設等で実際に使われている教材であり、大学で受講している多くの学生も幼い時に経験していたようである。しかし、指導者の立場で考察した経験は初めてのようであったが、小中学校時代の野外活動や修学旅行の中でもレクリエーションとしてこれらを実際に考え実行していた学生も多くいた。特に行事の「実行委員」としての経験をもつ学生が少なくあり、特別活動の目的の一つである仲間づくり、特にリーダー養成を各学校の教師たちが営々と取り組んでいる状況が学生を通じて知ることができたのである。このようにして特別活動では自ら行動することによって、美しいもの、よりよいものを作り出しており、自他の良さを見つけあう喜びを経験し、そのことによって自己の成長を振り返り、自己伸長の意欲を喚起しているのである。学校教育は美しいもの、優れたもの、芸術的なもの、伝統文化等に触れることによって豊かな情操を養っているのである。そのためにも、教師は特別活動の指導力を磨かねばならない。

ここで、この教職課程「特別活動論」の感想文を紹介する。

- この授業では実践的な活動を考えレポートにまとめることで学校現場での指導のイメージが出来ました。特に印象に残っていることは、「レッツアサーティブ」です。見方を変えれば人の短所は長所になるということに気づきました。人間関係上のトラブルは学校だけではなく社会に出ても生じることなので、大学生の今、改めて人間関係について考えることが出来ました。
- 特別活動が学校教育に果たす役割は生徒の心を育てることにあると考えます。そのためには教師自身が生徒の心を育むための知識や観察力を持つことが必要であると思います。この授業で、学校行事や部活動の指導の際の教師の意図や指導法について考えることが出来、教師という職業へ向けて配慮や視野を広げることが出来ました。

5、大震災から学んだ教訓と特別活動

次に「生きること」の原点を具体的事実でもって示したあの大震災において、避難所となった学校での教師たちの活躍を記したい。筆者は阪神淡路大震災の当時、神戸市役所の教育員会

事務局に在籍していたので市の職員であった。それまで学校の教師をしていた経験から避難所となった市街地の学校に支援者として派遣され、押し寄せる多くのボランティアのコーディネートをし、避難所経営にも参画した。

第一に、これまでの人権教育や特別活動は抽象的な論を並べて格調高いポーズをとりすぎてきた。ということである。つまり「生きる喜び」を実感させる教育とはあまりにも程遠かったことがあの震災の混乱で示されたのである。第二に、防災マニュアルの不十分さと無力さが厳しく指摘されているが、学校教育についても同じことがいえたのである。つまり大混乱の中では役に立たなかったのである。しかし、当時だれも予想しなかったことが実際に起きた。

それは、あれほどの大災害であったのに被災者は当時の生徒を含め、誰もが比較的冷静であったのである。今にして考えると、やさしさの裏にあるものは何か、単なる親切とか同情、思いやりや奉仕ということではなかったのである。生きることに對する共鳴感や何かをしなければという心情が、被災した生徒たちをもボランティアという行動に駆り立てたのであって、単なる奉仕活動ではなかった。生徒たちは正常であり、正義感に燃えていた。そして、多くの大人たちや教師も当時の若者や子供觀の見直しを迫られていたのであった。生徒たちは健全に育っている。全ての子どもたちを信頼することから学校教育も再出発すべきであると考えたのであった。

多くの被災者は被災者となって立場が変わり、視点を変えて見ればいかに多くの問題点があるかを実感させられたのではないだろうか。教育現場そのものも大きな被害をうけており、長期間にわたって避難所にあてられた学校も少なく無かった。そこで直接、間接に苦勞した教師も多かったのであった。

教師たちは救済活動や支援、避難所運営を学校園の組織を使い、特別活動の授業展開そのままで、すばやく「人権的」な対応ができたのであった。もちろんこうした教師の背中を見ていた生徒たちは、後日にボランティア元年と言われた奉仕救済活動の真髓を学んだのである。学級活動、生徒会、学校行事等の企画実践で体験学習を常に指導し、特別活動の指導のプロといい「教師たちの活躍する避難所」だからこそできたことを実感したのであった。他の公共施設の避難所の状況と一線を画していたのである。

こうして、あれほど多くの犠牲者を出し「生」と「死」の局面に立って嘆き悲しみ、生きることの喜びもかみしめた教師の存在は、その後語り継がれるようになった。教師集團の「特別活動指導力」が学校教育を支え、児童生徒に「生きる力」を育成する見本となったのである。

参考文献

- 1) 兵庫県ガールスカウト連盟67団 (1987)「集團のルール資料」
幼い子供に集團のルールを覚えさせるゲームであり、各種の教育施設や団体で取り組まれている
- 2) 文部科学省 (編) (2008)『中学校学習指導要領解説 (特別活動編)』ぎょうせい出版